

《総合科学部》人間文化学科心理・健康コース

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマ・ポリシー		【1. 知識・理解】 人文科学・社会科学・人間科学に関わる幅広い知識を習得し、日本文化及び外国文化を深く理解し、地域社会及び国際社会で活躍できる。	【2. 汎用的技能】 (1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	【3. 態度・志向性】 豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	【4. 総合的な学習態度と創造的思考力】 総合的な視点と知識を身につけ、現代社会のさまざまな問題を分析する能力と技能、情報発信能力を有し、地域社会の文化や生活環境の創造に貢献できる。	科目の教育目標			
	ディプロマ・ポリシー	ディプロマ・ポリシー								
学術共通科目	日本語表現の基礎	◎	○	○	○	◎	現代日本語の構造を客観的に説明できる能力と、具体的な場面において適切に運用できる能力を身につける。			
	文化研究の基礎	◎	◎			◎	分析の方法について学び、実際の表現方法の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎を築き上げる。			
	哲学・思想の基礎	◎	○				◎	人文科学（哲学）に関わる幅広い知識の理解、日本語で論理的な文章を書くことができる能力の養成、高い倫理観の涵養		
	近現代世界の成立と展開	◎		◎			◎	講義でとりあげる各国の近代化過程を比較的に、グローバルな視野をもって理解すること。		
	心理学の基礎Ⅰ	◎	○			○	○	本授業では、心理学のさまざまな分野のうち、発達を心理学的観点から検討する。生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。		
	心理学の基礎Ⅱ	◎	○			○	○	学問としての臨床心理学の視点から、「こころ」に対するアプローチの理解を目標とする。		
	ヘルスプロモーションの基礎	◎	○			◎	○	1. 生活習慣病とは何かを理解する。 2. 生活習慣病予防のための運動の在り方を理解する。 3. 健康維持のための日常生活の在り方を理解する。		
	健康体力科学の基礎	◎				◎	◎	現代社会の健康問題は、を正しく捉えるために、神経系、筋系、呼吸循環器系、代謝系、運動機能に関わる基礎的な理解を踏まえ、日常生活における具体的な健康体力の諸問題の解決策を学習する。		
コース専門コア科目	行動統計学			○		○	◎	観察、調査、実験などによって収集したデータを、その種類と研究の目的に合わせて適切に統計処理を行い、その結果から言及できることを正しく解釈できるようになる。		
	人間行動研究法		◎		◎		○	人間行動を数量的に把握するための系統的なデータ収集法（観察、調査、実験など）について概括し、研究目的に適した手法を用いて収集されたデータの型に即した統計処理法の選択、および基本的な手法の手順の修得を目的とする。そのために、班単位で実際にデータ収集から整理、分析、報告書の作成までを行う。また、学術的に発表された論文の研究法を正確に理解することにも重点を置き、研究論文として備えるべき条件についても併せて触れる。		
	運動生理学	◎				○	◎	◎	本講義では、運動時の生体の諸機能の変化およびトレーニング効果について理解してもらおう。そのために、成人から高齢者の身体機能の特性およびその測定評価方法について、生活習慣病の予防、介護予防との関連から論ずることを目的とする。	
	知覚心理学	◎	○			○		◎	「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を学び、知覚心理学で用いられる実験手法や研究手法を理解し身につける。	
	社会心理学	◎	○			○		○	人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について理解する。	
	コミュニティ心理学	◎	○			○		○	予防教育、治療的介入、社会復帰支援という一連のプロセスについて理解し、柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする。	
	健康教育学	◎	○			○		◎	現代社会の歪みをもたらす健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を養う。また、社会において健康の保持増進に貢献できる実践力を修得する。	
	スポーツ社会学	◎	○			○		○	地域における身体活動である住民の健康体力づくりやスポーツ行動に注目し、人間のWell-beingという視点から、「人間-身体活動(スポーツ)-社会」の関係を捉える。また、地域の健康文化の振興や住民のスポーツクラブの育成といった継続的な健康体力づくりをねらったコミュニティ設計の意義や問題点について理解し、住民利用者の運営参加と合意による健康体力づくり事業の推進のあり方について学習する。	
	スポーツマネジメント論	◎	◎			○		◎	本授業では、スポーツマネジメントを実践するための専門的知識について学習する。具体的には、学校、地域、民間、公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や高出席率についての理解を深めるとともに、生涯スポーツの振興を図るための効果的・効果的な経営過程論についても理解を深めていくことを目的とする。	
コース専門選択科目	生理心理学	◎	○					◎	脳と心の関係についての基礎知識を身につける。	
	精神医学	◎			○		◎	◎	精神医学に関する正しい理解と認識が、今ほど求められている時代はないと思われる。単に医療の世界だけでなくさまざまな臨床心理、福祉、教育、法律などの分野においても精神医学の知識と応用が大切になってくると思われる。臨床心理学の経験をもとに、なるべく平易に、かつ体系的に、こうした精神医学に対するニーズを満ちさせるように講義したい。ICD-10(WHOによる国際疾病分類)のとりとち各疾病について概説しながら、精神医学の基礎知識、メンタルヘルス、精神医療の歴史、精神保健福祉法などについても触れていきたい。	
	心理学実験実習Ⅰ	◎	○			◎			心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験し、具体的にそれらの手法を身につけ、加えて統計処理やレポートの書き方等、心理学の研究に必要な基礎知識を獲得する。	
	心理学実験実習Ⅱ	○	○			○		○	心理学実験実習Ⅱでは、心理臨床場面で用いられるいくつかの心理検査を通じて、心理査定(心理アセスメント)のあり方を体験的に学習することを目的としている。個人のパーソナリティを理解することは容易ではないが、質問紙検査や投射法検査などのさまざまな心理検査を総合的に用いることで、「その人らしさ」が少しずつ見えてくるのである。ここでは、自分自身が心理検査を受けることで、その特徴や意義を理解すると同時に、自身のあり方について考える機会になると思う。	
	応用解剖生理学	◎				○		◎	運動を行うときに身体の様々な機能を働かせて身体活動が成り立っている。本講義では身体活動という視点から身体の構造を学び、また身体のような機能を備えているかを理解することを目標とする。基本動作としての走運動、投動作、跳躍動作に関わる身体の構造と機能を理解する。複合動作としての球技系の運動での身体の動きを理解する。	
	衛生・公衆衛生学	◎				○		○	◎	公衆衛生学の目的は、個人の健康の保持・増進を回り疾病を予防することである。この授業では健康の保持、増進と疾病に対する早期発見、早期治療を行うための知識と判断力を養い、それを実践するための健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解することを目的とする。
	コーチング論	◎				◎		◎	◎	コーチの役割について理解するとともに、コーチングを行う上で必要な、スポーツ医学、スポーツ生理学、トレーニング学の知見を身につける。また、対象別の指導上の留意点についても学ぶ。

コース専門選択科目	コーチング論実習Ⅰ	◎	○		○	○	この授業では、体づくしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに、自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力、さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする。	
	コーチング論実習Ⅱ	◎	◎	○	◎	◎	健康づくりのための身体活動をおこなう上で、指導者が人の心身の状態を観察し、調整することは不可欠である。また、コーチングをおこなう上で良好なコミュニケーションがとられれば、運動の心理的効果を促進することができる。そのため、知識と技術について実習を通して、理解を深める。	
	コーチング論実習Ⅲ	◎	○		○	○	走・跳・投といった陸上運動に関して、自己の能力に応じた課題解決、技術の獲得や記録の向上に必要な知識と技術を習得する。さらには陸上競技に必要な指導力を養成することを目的とする。	
	コーチング論実習Ⅳ	○			◎	○	本授業では、バスケットボールの集団的技術および個人技術の実技指導を行い、作戦によるゲームの楽しみ方について学習をすすめる。また、バスケットボールの技術評価方法、体力的要素となるスピード、アジリティ、クイックネス、コーディネーション能力の知識とトレーニング法について理解する。	
	コーチング論実習Ⅴ	◎	○		◎	◎	この授業では、サッカーの技術を理解し、個人技術を高め、集団での技能や戦術を養って実施できる能力を身につける。さらにこれらの種目に対する指導力を養成することを目的とする。	
	コーチング論実習Ⅵ	◎	○		○	○	本授業では、有酸素運動に連した水中運動の体験を通して、水中での運動の難点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的としている。具体的には、水中での身体の使い方や推進力の理論を踏まえ、水難救助の方法や、アクアサウザンズの実践、基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う予定である。	
	コーチング論実習Ⅶ	◎	◎		○	○	本授業では、バレーボールの技術を理解し、学習段階に応じた作戦を立て、防衛から攻撃を生かしたゲームができるようにする。また、その指導法や技術評価法についても学ぶ。	
	コーチング論実習Ⅷ	◎	◎	○	◎	◎	健康づくりのための身体活動をおこなう上で、人間の行動を観察し、そこで得られた情報を基に判断し、より良い行動へと展開させることは、素早く上達するためだけでなく、安全管理をすすめていく上で重要である。また、個々で実施する身体活動だけでなく、集団で活動する際には良好なコミュニケーションが運動の心理的効果を促進する。そのため、知識と技術について、実習を通して理解を深める。	
	運動文化論	◎	○		◎	◎	スポーツをはじめとする運動文化は、固有の身体技術、ルール、練習・競技・実演の様式と体系的知識、思想・論理、組織・制度を有しており、身体的競争・表現・コミュニケーションを介して、われわれ個人個人の身体発達と人格の形成、生活文化に貢献し、多くの人々の社会参加を促し、集団と社会の形成に積極的に関与している社会現象である。この授業では、その成立過程や社会的機能について探究し、体験ワークショップで理解を深める。	
	スポーツ心理学	◎	○		◎	◎	スポーツ、体育、身体活動が心身にどのような影響を与えるかについてスポーツ心理学の観点から考える。特に、身体活動としての運動の心理的効果やスポーツ実技場における特有の心理現象に着目し、人間のからだどここの関係について理解を深める。	
	スポーツ栄養学	○			○	○	体力づくり、疾病予防、競技力向上の観点から栄養の重要性を正しく理解するために、各種栄養素の数量、食品の役割、食品構成などの基礎を身に付け、また、健康づくりと栄養との関連性についての知識と技能を身に付けさせる。 〔上記の趣旨を踏まえて、個々の授業科目で教育目標を設定〕 〔下記項目の◎○印についても、各授業科目担当者が設定〕	
	経営学Ⅰ		○			○	◎	経営組織論に関連する主要な概念や理論（個人の動機づけ等のミクロの組織論から、組織設計を考えるマクロの組織論まで）を習得し、それを応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点を持って組織の問題を考えて分析できるようにすること。
	情報と職業	◎	◎		◎	◎	◎	情報社会におけるビジネス、職業に関する基礎知識を学び、職業観、就労・労働の意識の形成、キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー、IT利活用能力を身につける。
	福祉情報論	○	◎				◎	バリアフリー映画会の準備と実施をとおして、福祉情報に関する知識と技術を身につける。また、現代社会における個人と家族という対象を通して社会を理解するとともに、卒業後の人生選択時に役立つ実践的思考能力を獲得する。従来の福祉学では、家族の近代化やエの福祉からの解放支援が課題とされていたが、近年その目標とされた「家族の近代化」の中身を再吟味すべきであるという主張が強まっている。理想とされた「家族愛」のなかに、大人による子ども支配や性差別の要因が含まれていたのではないかと疑問を抱いているのである。本講義では、この近年の家族社会学の変化を踏まえ、家族システムの変化をそれを含む社会システム全体の変化の中に位置づけて考えていくことにしたい。情報社会化、グローバル化、消費社会化、データベース型管理社会などがキー概念として提出される。
	地域社会論		○				◎	地域社会をより深く理解するため、地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し、自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し、地域分析ができるようになること。
	市民活動論	○		○		◎	◎	市民活動の概要を学ぶ。
	比較社会論			○		◎	◎	アメリカの家族および社会について社会的な分析視点を持ってもらうことを授業のテーマとする。
	異文化間コミュニケーション	◎	◎		◎	○	○	(1) 受講者自身が自らの文化に気づく。 (2) 多様な価値観を認める心的素地を形成する。 (3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションしていくための具体的方法を学ぶ。
	地域交流史	◎			◎	○	◎	世界史を日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通して、各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を理解し、将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し、日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする。
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎		○	◎	◎	スポーツの普及と振興に関する問題の把握、文献収集、社会調査に関する方法の理解とデータ分析、調査の実践とプレゼンテーション
心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎			○	○	卒業論文を執筆するために必要な基礎知識を身につける・心理学論文の読み方、プレゼンテーションと議論を行う力を身につける	
心理・健康ゼミナールⅠ	○	◎			◎	◎	スポーツ科学(健康体力学・バイオメカニクス)の研究に関する理論とともに研究方法の技能を学ぶ。テーマに関して調査・実験を行い、その結果を発表する。これらの活動をを通して上記の理論・技能を学ぶ。	
心理・健康ゼミナールⅠ	◎	○			◎	◎	卒業論文作成に向けて、各受講者の研究テーマを検討し、文献検索や論文のまとめ方などの必要なスキルを獲得する。興味・関心のあるテーマについて発表・議論を行う。	
心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎			◎	◎	卒業論文作成のためのテーマ決定のための基礎情報の獲得	
心理・健康ゼミナールⅠ	○	◎			◎	◎	心理学的研究方法を修得し、自らの研究テーマを深める	

コース専門選択科目	心理健康ゼミナールⅠ	◎	○	○	○	◎	人間の身体の構造と機能を学び、運動によるメリット・デメリットについて総合的に理解する。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	○	◎			◎	心理学に関する卒業研究を行うための基礎知識を、論文購読・発表・議論によって習得する。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎	○		◎	コミュニティ心理学の観点からこころの健康問題を理解し、科学的手法で説明していく基礎的技法を身に付ける。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	○	○		◎	人間の身体の構造と機能を学び、運動によるメリット・デメリットについて総合的に理解する。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	○			◎	スポーツ社会学に関する文献を読み、基礎的知識と社会調査スキルを身に付ける。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎			◎	生理学分野の英文・邦文の学術論文を読み、基礎的知識を身に付け、さらに研究内容を紹介し、集団で議論することでプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を身に付ける。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎			◎	卒業論文の執筆や発表に必要なスキル（文献検索、論文内容の把握、実験の実践、実験論文のまとめ方、発表の仕方等）を身に付けさせることを教育目標とする。	
	心理・健康ゼミナールⅠ	◎	◎	○		◎	スポーツ活動は健康づくりをおこなう上で重要な役割を担っている。しかし、一方でスポーツの意義や価値は狭義的に捉えられると負の側面をもつこともしばしばある。そこで、体育・スポーツだけでなく、日常生活活動を含めた全ての身体活動（運動）に着目し、運動が心身の健康にどのように関わっているかについて広範囲に理解する。また、これまでの知見から今後の運動の価値や意義についてグループディスカッションや実習を通して考える。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	○	◎	○		◎	スポーツの普及と振興に関する問題の把握、文献収集、社会調査に関する方法の理解とデータ分析、調査の実践とプレゼンテーション	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎			○	・卒業論文を執筆するために必要な基礎知識を身に付ける ・心理学論文の読み方、プレゼンテーションや議論を行う力を身に付ける	
	心理・健康ゼミナールⅡ	○	◎			◎	スポーツ科学（健康体力学・バイオメカニクス）の研究に関する理論とともに研究方法の技能を学ぶ。テーマに関して調査・実験を行い、その結果を発表する。これらの活動を通して上記の理論・技能を学ぶ。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎			◎	研究テーマの設定、文献レビュー、研究計画の立案、データ収集・解析、執筆などの卒業論文を作成するための演習を行い、卒業論文の作成について学ぶ。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎			◎	卒業論文作成のためのテーマを決定し、研究計画を立てる	
	心理・健康ゼミナールⅡ	○	◎			◎	心理学的研究方法を修得し、自らの研究テーマを深める	
	心理健康ゼミナールⅡ	◎	○	○		◎	人間の身体の構造と機能を学び、運動によるメリット・デメリットについて総合的に理解する。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	○	◎			◎	心理学に関する卒業研究を行うための知識および課題発見の能力を、論文購読・発表・議論によって習得する。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎	○		◎	コミュニティ心理学の観点からこころの健康問題を理解し、科学的手法で説明していく基礎的技法を身に付ける。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	○	○		◎	人間の運動・行動の制御について、主に脳神経系と関節-筋系を中心に従来の研究報告の概要を理解し、卒業研究のテーマを立案する	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	○			◎	卒業論文のテーマを定めて文献を整理し、研究枠組みを決めて調査法を習得する	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎			◎	からだの働きを生理学的にとらえ、そこで得られた知識・技術を健康分野、運動療法、リハビリテーション分野、医療分野等へ応用できる測定・評価技能を養うこと。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎			◎	卒業論文の執筆や発表を実践するスキルを身に付けさせることを教育目標とする。	
	心理・健康ゼミナールⅡ	◎	◎	○		◎	スポーツ活動は健康づくりをおこなう上で重要な役割を担っている。しかし、一方でスポーツの意義や価値は狭義的に捉えられると負の側面をもつこともしばしばある。そこで、体育・スポーツだけでなく、日常生活活動を含めた全ての身体活動（運動）に着目し、運動が心身の健康にどのように関わっているかについて広範囲に理解する。また、これまでの知見から今後の運動の価値や意義についてグループディスカッションや実習を通して考える。	
	人格心理学	◎	◎			○	◎	1. 自己や他者に関する理解を深めるために、心理学的観点を役立てることができる。 2. 生活場面において多面的に物事を考えるために、心理学的観点を活かすことができる
	認知心理学	◎	○			○	◎	本講義の目標は、認知心理学が扱う基本的な内容について理解することに加えて、認知心理学が臨床や社会における問題の解決に寄与していることを学ぶこととする。
	教育相談	◎	◎				◎	教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身に付ける。
	健康心理学	◎	○			○	○	健康の増進と維持、疾患の予防と治療、健康・疾病に関する原因・診断の究明、およびヘルスシステム・健康政策策定の分析と改善等に対する心理学的知識を理解する
学習心理学	◎	○			○	○	学習心理学の基礎知識を身につけるとともに、その臨床応用の概要を理解する。	
人間形成論							開講なし	
スポーツ障害論	◎	◎			○	◎	運動に伴う疾病や障害について医師にかかる前にどのような対応や処置をとるのかを判断するための知識を学ぶ	
レジャーマーケティング論	◎	○				○	我が国のレジャー産業は80兆円という市場規模にまで成長し、現在もなお発展し続けている。本授業では、レジャー産業のなかでも特にスポーツという視点から産業全体を概観していく。具体的には、スポーツとビジネスを結びつけるために必要なマーケティングに関する技術を、顧客志向の考え方や消費者行動論、経営戦略論等も交えながら紹介することで、レジャーマーケティングに関する基本的な考え方の理解を深めることを目的とする。	
地域健康福祉論	◎	○			◎	◎	少子高齢化が進む日本社会において、医療費の増加に歯止めをかけ、高齢者のQOLを維持していくことは極めて重要。至難な社会的課題がある。身の回りの家族、地域、社会の健康問題に関心をもち、その実態の理解と課題の解決法について考察する。さらに自らの体験を通して健康的なライフスタイルを実践できる資質を養う。	
救急処置法	○	◎				○	様々な疾病の病態と救急処置法を学ぶ	
健康行動論	◎	○				○	健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし、健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う。	
経営学Ⅱ	○	○			○	◎	経営組織論に関連する主要な概念や理論（個人の動機づけ等のミクロの組織論から、組織設計を考えるマクロの組織論まで）を習得し、それを応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点を持って組織の問題を考えて分析できるようになること。	

コース専門選択科目	地域構造論	◎	○		◎	◎	都市地理学が扱う幅広いテーマについて学説史をふまえた基礎的知識を学び、複雑な現象の背後にはたらく諸要因を理論的に検討する能力を身につける。
	情報社会と情報倫理		○	○	◎	◎	現代社会における人、企業、物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。
	心理学実験実習Ⅲ	○	○		○		心理検査の実施方法や解釈法などを習得し、心理学的アセスメントを行うための基本的技法を習得することを目指す。また、自身の検査結果を基に自己分析を行い、自己理解を深めることを目標とする。
	心理学実験実習Ⅳ	◎	○		◎		心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験し、具体的にそれらの手法を身につけ、加えて統計処理やレポートの書き方等、心理学の卒業研究に必要な基礎知識を獲得する。
	スポーツ科学実験実習	○			○		スポーツ科学に関する基礎的な実験を行い、スポーツを科学的に認識する態度を養う。
	ウェルネス・プロジェクト実習	◎	○		◎	○	地域のスポーツ振興や健康体力づくり事業における諸問題に対して、地域の行政や社会団体、企業が実施する事業運営に補助的に携わり、評価・計画・実施・改善の過程に参画し、プロジェクト運営の方法を身につける。
	応用生理学	◎			○	○	健康に関連する社会問題の解決策の一つとして運動による一次予防の重要性を理解するために、トレーニングによる身体機能の適応、発育発達、疾病と運動との関連、スポーツリハビリテーションなどの知識を身に付け、さらに、運動による健康問題の解決に取り組む意思・能力を身に付けさせる。 (上記の趣旨を踏まえて、個々の授業科目で教育目標を設定) 〔下記項目の◎○印についても、各授業科目担当者が設定〕
	福祉心理学	◎			○	◎	我が国における社会福祉の歴史および現在のしくみについて概観し、福祉領域における心理学的アプローチと今後の課題について理解する。